

気温上昇に伴う自動火災報知設備の作動（非火災報）にご注意を！

【自動火災報知設備とは】

火災により発生する熱や煙を感知器が自動的に感知し、警報ベル等を鳴らして建物内の人たちに知らせる設備です。

【夏季の気温上昇に伴う自動火災報知設備の作動（非火災報）とは】

自動火災報知設備の感知器が火災以外の熱や煙等により作動し警報ベル等が鳴ることをいいます。気温の上昇が続くと主に屋根裏（小屋裏）は熱がこもりやすく夏の強い日差しにより相当の高温となり感知器が作動すると考えられます。



【非火災報の対策】

- 気温上昇による屋根裏の感知器が作動しないために天井に設置の点検口を開けるなど換気を行ってください。
- 屋根裏の感知器の種別が差動式スポット型感知器 2 種防水型か、定温式スポット型感知器 1 種防水型（公称作動温度 70～75℃）のいずれかになっているか確認してください。（消防設備業者等に確認してもらってください）

【自動火災報知設備が鳴動した場合】

建物内に煙が充満していないか、焦げ臭い匂いがないかを確認し火災の発生のおそれのない場合は管理会社もしくは消防設備業者に連絡し対応してください。火災かどうかわからない時は 119 番通報してください。

【留意事項】

感知器が作動した場合、警報音がうるさいなどを理由として、非常ベル停止や電源遮断は行わないでください。自動火災報知設備の受信機を操作する場合は、機能上の知識を有している人が行うことが望ましいと言えます。また屋根裏などを換気中、一時的にベル停止する場合は、機能を復旧させるまでの間、監視や巡回したり入居者の方へその旨を伝えることが必要です。

